

学力向上に効果のある取組事例

大分大学教育学部附属中学校

②思考力、判断力、表現力等の育成

取組の具体①

(1) 授業者の見通し・振り返りにおける授業改善

①「授業改善のイメージ」を作成

・教科部会で、単元において重視したい「教科の見方・考え方」と、観点別評価の「思考力・判断力・表現力」との対応関係を検討する。

②「単元プランシート」を作成

・形成的評価と総括的評価を適切なタイミングで行えるように、見通しをもって評価計画を立てる。

○形成的評価 いつ・どのようにするか計画し、指導改善に活かす。
特に配慮を要する学習者への手立てを充実させる。

○総括的評価 学習者の力が高まった「ここぞ」という場面で多面的な方法で評価する。また明確な評価基準を設定する。

(2) 学習者が自ら学びを俯瞰し自己調整できるようにするために、見通し・行動・振り返りのサイクルを充実させる。

①手帳を活用し、日常的に見通し・行動・振り返りを行う習慣を定着させる。

②授業者と学習者が単元のめあて(単元を通して追究する課題)を共有し、単元を通して、見通し・行動・振り返りのサイクルを繰り返し循環させる。

※資料1…研究の設計図 資料2…授業改善のイメージ(数学)を抜粋したもの



取組の具体②

作成した単元プランシートに基づき、第1学年において、図形領域「平面図形(作図)」では、角の大きさの作図を説明する活動を授業、レポート課題、定期考査で実施した。授業では75度の作図をすることで、それまで学習した角の二等分線の作図や垂直二等分線の作図などをどのように使えば角の大きさにつながるかを確認した。授業の振り返りにおいて、「他の角度も作図をしてみたい」「15度がかけるので15の倍数の角度がかけそうだ」などの記述が見られた。

レポート課題では授業で行ったことをいかし、105度の作図とその説明をさせることで、総括的評価を行った。レポートの振り返りの中では「授業では偶然75度を作図できたが、今回は90度+15度というように繋げて考えることができた」などという記述が見られた。定期考査の中では135度の作図することをレポート同様に課した。

